

宇出津地区 (二期)

(石川県鳳珠郡能登町)

- 計 画 期 間 平成 22 年～平成 26 年
- 面 積 35.0ha
- 交付対象事業費 1,500 百万円
- 町人口 15,879 人

ポイント

のと鉄道旧宇出津駅を起点とした、まちなか回遊性の向上や、住民参加のまちづくり活動を通じた、賑わいの創出。

目 標

祭りのメッカ・奥能登のにぎわい中心地としての宇出津地区の復興。

指 標

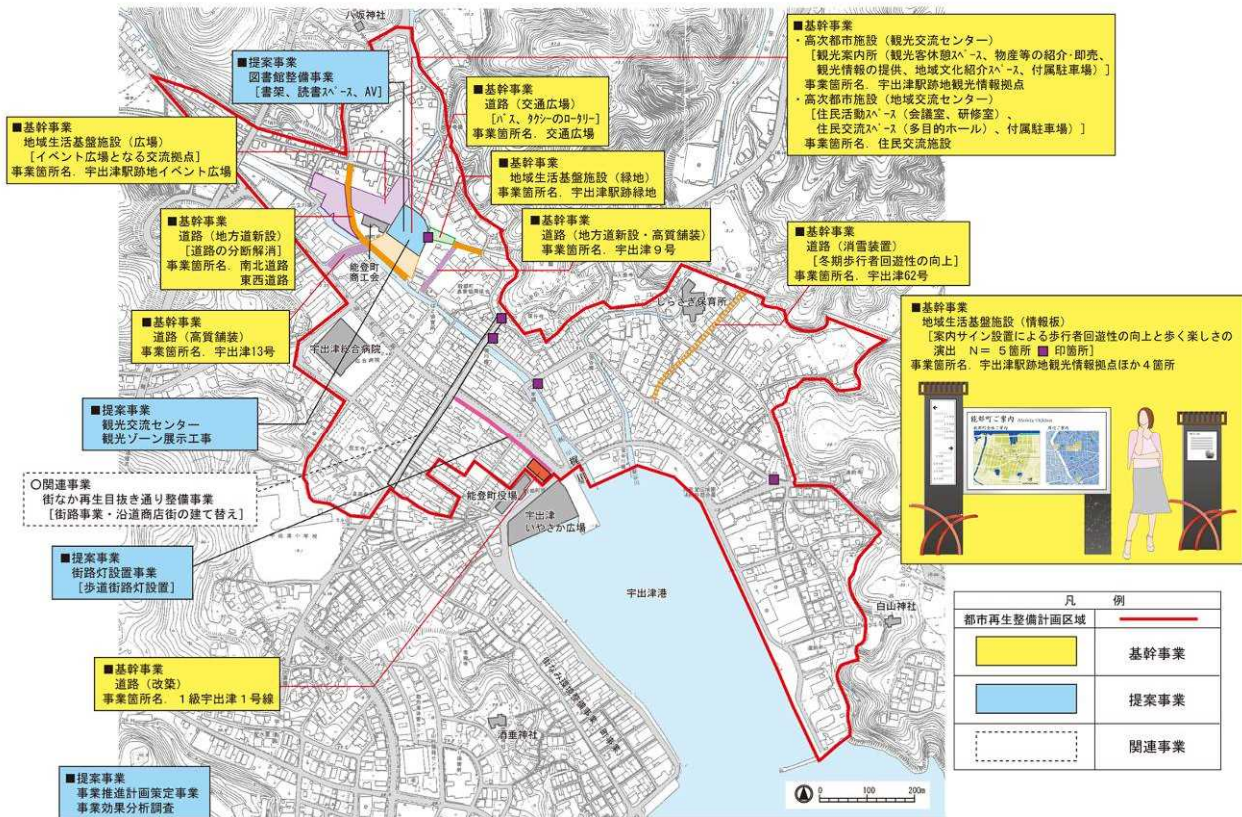
宇出津駅跡地を中心市街地の集客拠点とし、商店街を結ぶ回遊、各種活動の促進をはかる事を目標とした。

町民の交流の場としてのにぎわい拠点づくり	18 回/年	(H21)	→	23 回/年	(H26)
にぎわい拠点と商店街の回遊性の向上	766 人/10hrs	(H21)	→	800 人/10hrs	(H26)
祭りのメッカ・舞台としての魅力向上による来街者の増大	45,000 人/年	(H21)	→	55,000 人/年	(H26)

事業内容

基幹事業 (1,286 百万円) → 地方道新設(3 路線 L=227m)、交通広場 (A=1,872 ㎡)、高質舗装(2 路線 L=188m)、消雪装置(1 路線 L=220m)、広場 (A=5,354 ㎡)、緑地 (A=902 ㎡)、情報板 (N=5 基)、観光交流センター (A=300 ㎡)、地域交流センター (A=1,050 ㎡)

提案事業 (214 百万円) → 事業推進計画策定事業、事業効果分析調査、街路灯設置事業、図書館整備事業、観光交流センター観光ゾーン展示工事



地区の現況と課題

まちづくりの課題

- ・深刻化する過疎化と少子高齢化、近隣市町村への大型店進出等によって、中心市街地の人口が減少するとともに、中心市街地の求心力が低下し、賑わいが喪失しつつあることが課題である。
- ・宇出津地区のアイデンティティである春夏秋冬にわたる祭りの担い手である若者が減少しつつあるとともに、観光入り込み客数が減少しつつあることが課題である。
- ・平成 17 年 3 月にのと鉄道が廃止されて宇出津駅がなくなり、宇出津地区にあった奥能登の交通結節機能が失われることが課題である。
- ・地区の玄関口である旧宇出津駅から中心市街地への安全な歩行者幹線軸を有していないことが課題である。



◆宇出津駅跡(整備後)



◆能登町観光・地域交流センター「コンセールのと」

提案事業の特徴

図書館整備事業

既存施設の図書館は、老朽化も進み駐車場もないことから公民館と機能的に連携した形で建設することにより宇出津地区の文化の拠点として活用する。

街路灯設置事業

区域内において、既設の照明灯を LED 化し、撓度の確保と長寿命化を図る。



◆線路跡細街路(整備後)

計画策定プロセス

計画策定委員会の開催

のと鉄道旧宇出津駅跡地の整備については、平成 19 年 8 月に宇出津駅跡地利用検討委員会を設置し、平成 20 年 2 月より、庁内ワーキング部会を年 2 回開催し、基本計画(案)を作成した。



◆宇出津駅跡地利用検討委員会の様子

宇出津駅跡地利用検討委員会では、この庁内ワーキング部会の意見を反映させた基本計画(案)を承認し、宇出津駅跡地利活用計画を作成。平成 20 年 12 月、町に答申した。

地元意見交換会の開催

地元町会住民、関係機関での地元意見交換会を開催する。

まちなかの賑わい創出に向けた事業の整備などについて検討し、前協議会と連携を図りつつ、地元主体のまちづくりの推進にむけ、動き出している。



◆鉄道緑地広場(整備後)



◆図書館整備事業(整備後)